

# コスモス 7月号

第69巻 第7号

◆宮柊二カレンダー(28) 七月の歌

七夕の星を映すと水張りしたらひ一つを草むらの中  
歌集『小紺珠』

「七夕」五首の四首目の作品。初出は昭和二十二年十月号「多磨」。異同は「くさむら」を「草むら」とした一箇所のみ。一首前に「常の日の遊びを知らぬ妻と子も今宵睦べよ星を待ちつつ」の歌があり、草むらに置いた盥に水を張って星が映るのを妻子と共に待ったのだ。七夕の夜九時ごろ東の空を見上げると光る星二つ。盥の水をかき混ぜて水に映る二つの星の光を一つにする。ロマンチックな風習だ。生活は苦しいが、七夕の祭りを樂しむ余裕が生まれている。  
(風間博夫)